

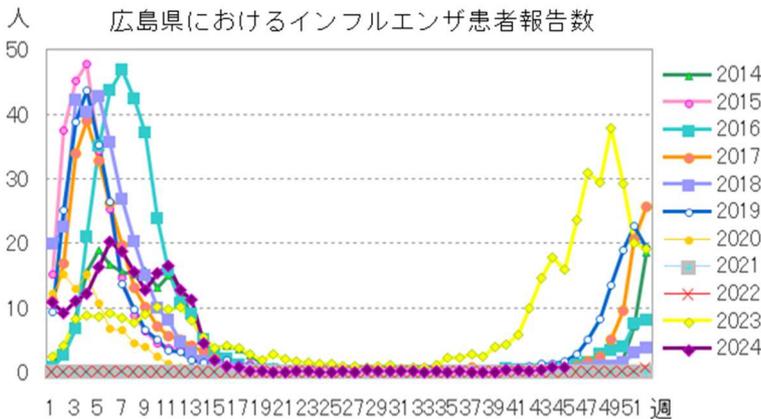
広島県感染症発生動向月報 [広島県感染症予防研究調査会] (令和6年11月解析分)

1 今月のトピックス

■ インフルエンザが本格的に流行する前に早めの対策を！！

季節性インフルエンザは流行性があり、いったん流行が始まると短期間に多くの人へ感染が広がる傾向があります。全国では第44週（10月28日～11月3日）にインフルエンザの定点当たり報告数が1を上回り、流行入りしています。1年を通して流行した2023年シーズンを除くと2009年に次いで2番目に早い流行入りとなります。また、県内においても第46週（11月11日～17日）の定点当たりの報告数が1.77人となり、流行入りしました。

この先も、空気が乾燥して気道粘膜の防御機能が低下するなど、インフルエンザにかかりやすい時期が続きます。冬季は季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が懸念されるため、下記の対策を十分に行い、インフルエンザを予防しましょう。



■ インフルエンザを予防する有効な方法

- 流行前のワクチン接種
- 外出後の手洗い等
- 適度な湿度（50～60％）の保持
- 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- 人混みや繁華街への外出を控える
- 室内ではこまめに換気をする

■ 12月1日は「世界エイズデー」

WHO（世界保健機関）が1988年に、エイズのまん延防止や患者・感染者に対する差別偏見の解消を目的として、12月1日を「世界エイズデー」と定め、エイズに関する啓発活動などの実施を提唱しました。

運動のシンボルであるレッドリボンには、エイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージが込められています。

広島県においても、12月1日を中心に啓発活動などを実施しており、本年は12月7日に広島市内で5年ぶりのレッドリボンキャンペーンを実施します。

また、県ホームページから検査の日程等も確認できますので、検査を希望する場合は、事前に電話予約のうえ、受検ください。世界エイズデーに合わせ、検査時間を延長する保健所などもあります。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和6年10月分(令和6年10月7日～令和6年11月3日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	212	0.46	2.32	↑	11	ヘルパンギーナ	25	0.09	0.48	↓
2	新型コロナウイルス感染症(covid-19)※1	722	1.56		↓	12	流行性耳下腺炎	10	0.03	0.06	↗
3	RSウイルス感染症	59	0.20	0.55	↘	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
4	咽頭結膜熱	78	0.27	0.36	↘	14	流行性角結膜炎	36	0.47	0.57	↘
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	561	1.92	0.99	↘	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	感染性胃腸炎	781	2.67	2.74	↘	16	無菌性髄膜炎	2	0.03	0.01	
7	水痘	29	0.10	0.11	→	17	マイコプラズマ肺炎	251	3.14	0.03	→
8	手足口病	696	2.38	0.88	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	伝染性紅斑	5	0.02	0.08		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.01	0.00	
10	突発性発しん	61	0.21	0.27	↘	※1 第19週(5/8～)から五類に変更。					

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和6年10月分(10月1日～10月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	61	2.65	3.17	↘	24	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	84	4.00	3.69	↗
21	性器ヘルペスウイルス感染症	24	1.04	0.85	↗	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0.14	0.15	
22	尖圭コンジローマ	22	0.96	0.76	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.00	
23	淋菌感染症	18	0.78	1.48	↘	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 インフルエンザ (0.18 → 0.46)
○急減疾患 Covid-19 (3.14 → 1.56)
ヘルパンギーナ (0.21 → 0.09)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内177の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13、14	20～23	15～19、24～26	
定点数	43	73	19	22	20	177

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	35	結核(35)[西部保健所(5)、西部東保健所(2)、東部保健所(9)、北部保健所(3)、広島市保健所(8)、呉市保健所(2)、福山市保健所(6)]
三類	8	腸管出血性大腸菌感染症(8)[西部保健所(1)、東部保健所(1)、北部保健所(1)、呉市保健所(1)、福山市保健所(4)]
四類	27	デング熱(1)[東部保健所(1)] レジオネラ症(8)[西部東保健所(2)、東部保健所(1)、広島市保健所(3)、呉市保健所(1)、福山市保健所(1)] 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)(3)[北部保健所(1)、広島市保健所(2)] 日本紅斑熱(15)[東部保健所(9)、広島市保健所(1)、呉市保健所(3)、福山市保健所(2)]
五類	62	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(11)[西部東保健所(1)、東部保健所(3)、北部保健所(2)、広島市保健所(1)、呉市保健所(3)、福山市保健所(1)] 急性弛緩性麻痺(1)[広島市保健所(1)] 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)[西部保健所(1)、西部東保健所(1)] 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(2)[広島市保健所(2)] 侵襲性肺炎球菌感染症(2)[東部保健所(1)、広島市保健所(1)] 梅毒(31)[西部保健所(4)、西部東保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(18)、呉市保健所(3)、福山市保健所(4)] 百日咳(13)[広島市保健所(13)]

一類・二類・三類・四類・五類(全数把握対象)感染症発生状況 (広島県)

2024年10月31日 現在

分類	感染症名	発 生 件 数												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
二類	結核	19	37	26	34	35	32	28	25	16	35			287
	小 計	19	37	26	34	35	32	28	25	16	35	0	0	287
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	5	2	0	5	9	4	15	8	8			58
	小 計	2	5	2	0	5	9	4	15	8	8	0	0	58
四類	E型肝炎	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0			5
	A型肝炎	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0			4
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	デング熱	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1			5
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	1	3	3	0	0	0	3			10
	日本紅斑熱	0	0	0	0	22	10	4	11	7	15			69
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	レジオネラ症	4	3	2	3	5	4	12	2	4	8			47
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
小 計	5	3	5	5	32	19	18	15	11	27	0	0	140	
五類全数	アメーバ赤痢	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0			4
	ウイルス性肝炎(A型及びE型を除く。)	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0			2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	2	4	7	1	6	4	5	1	11			45
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0		0	0	1	1	1			3
	急性脳炎	4	1	2	0	1	1	1	0	1	0			11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0			3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	2	4	6	2	5	5	1	0	2			34
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	1	2	2	1	0	2			8
	ジアルジア症	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0			4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0			4
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			1
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	0	4	1	1	4	2	1	2	2			21
	水痘(入院例)	0	2	1	0	1	2	1	0	0	0			7
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	梅毒	20	19	29	21	22	24	36	22	24	31			248
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	2	0	1	1	1	1	0	0			8
	百日咳	2	0	2	0	1	2	1	5	8	13			34
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	播種性クリプトコックス症	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0			4
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
小 計	43	31	52	40	34	47	56	37	39	62	0	0	441	
合 計		69	76	85	79	106	107	106	92	74	132	0	0	926

※ 一類～三類感染症は、疑似症患者及び無症状病原体保有者を含む。

【類別感染症名】

一類：	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
二類：	急性灰白髄炎(ポリオ)、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)
三類：	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス
四類：	E型肝炎、ウエストナイル熱、A型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、エムボックス(サル痘)、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺炎候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱
五類全数：	アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性脳炎、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例に限る)、先天性風しん症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症、百日咳、急性弛緩性麻痺

病原体（ウイルス）検出状況（県立総合技術研究所保健環境センター検査分）

検体採取期間：令和6年10月1日～11月15日

資料作成：令和6年11月18日

県立総合技術研究所 保健環境センター 保健研究部

1 県内医療機関からの受付検体数

患者数	検体数	陽性検体数	陰性検体数	判定保留	検査中
84	117	64	37	1	15

2 四類感染症からの検出状況

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
デング熱 ※	デングウイルス3型	1	1	血液	R6. 10月	10代	東部
つつが虫病疑い	つつが虫病リケッチャNT	1	1	血液, 痂皮	R6. 11月	60代	西部
日本紅斑熱疑い	つつが虫病リケッチャNT	1	1	血液, 皮膚組織	R6. 11月	50代	西部
	日本紅斑熱リケッチャ	16	28	血液, 痂皮, 皮膚組織	R6. 10月～11月	50代～80代	西部(広島), 東部, 東部福山, 福山市, 呉市

※ フィリピン居住歴あり

3 五類感染症からの検出状況

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	9	9	咽頭	R6. 10月～11月	2～53	東部
インフルエンザ	AH1pdm09型インフルエンザウイルス	5	5	鼻咽頭, 咽頭	R6. 10月～11月	6～24	西部東, 東部
手足口病	エンテロウイルスNT	1	1	咽頭	R6. 10月	1	北部
	エンテロウイルスA71	1	1	咽頭	R6. 10月	1	北部
	コクサッキーウイルスA6型	1	1	鼻咽頭	R6. 10月	6	西部東
	コクサッキーウイルスA16型	2	2	咽頭	R6. 10月	0	西部東
感染性胃腸炎	バレコウイルスNT	2	2	便	R6. 10月, 11月	0	西部東
水痘	水痘ウイルス+ヒトヘルペスウイルス7型	1	1	咽頭	R6. 10月	11	東部

4 その他の疾患からの検出状況

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
上気道炎	コクサッキーウイルスB4型	1	1	鼻咽頭	R6. 10月	5	西部東
	エコーウイルス3型	1	1	鼻咽頭	R6. 10月	4	西部東
	ライノウイルス	2	2	鼻咽頭, 咽頭	R6. 10月, 11月	1, 6	西部東, 北部
	RSウイルス+ライノウイルス	1	1	鼻咽頭	R6. 11月	14	西部東
	メタニューモウイルス	1	1	鼻咽頭	R6. 10月	1	西部東
下気道炎	マイコプラズマ・ニューモニエ	1	1	咽頭	R6. 10月	6	北部
かぜ様症状	エンテロウイルスNT	1	1	咽頭	R6. 10月	1	北部
	ライノウイルス	1	1	咽頭	R6. 10月	5	北部
	マイコプラズマ・ニューモニエ	1	1	咽頭	R6. 10月	11	北部
発熱	エンテロウイルスNT	1	1	咽頭	R6. 10月	4	北部

◆年間を通じた県内のウイルス検出情報（ひろしまCDCホームページ内 月別・疾患別ウイルス検出情報）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hidsc-virus-kensyutsu.html>

5 保健所別検査依頼受付状況（検体採取期間：令和6年10月1日～11月15日）

保健所地区	検体数	疾患名（検体数）
西部	6	ダニ類媒介感染症疑い(5), E型肝炎(1)
西部(広島)	2	ダニ類媒介感染症疑い(2)
西部(呉)	0	
西部東	19	インフルエンザ(2), 手足口病(1), 感染性胃腸炎(3), マイコプラズマ感染症(1), 上気道炎(12)
東部	39	デング熱疑い(2), ダニ類媒介感染症疑い(20), 急性脳炎(3), 新型コロナウイルス感染症(9), インフルエンザ(3), 手足口病(1), 水痘(1)
東部(福山)	7	ダニ類媒介感染症疑い(6), 下気道炎(1)
北部	23	ダニ類媒介感染症疑い(6), 急性脳炎(2), 手足口病(3), 上気道炎(1), 下気道炎(3), かぜ様症状(6), 発熱(1), 発疹(1)
福山市	12	ダニ類媒介感染症疑い(12)
呉市	9	ダニ類媒介感染症疑い(9)

病原体（細菌）検出状況（県立総合技術研究所保健環境センター検査分）

資料作成：令和6年11月19日

対象期間：令和6年7月1日～令和6年10月31日に依頼されたもの

県立総合技術研究所 保健環境センター 保健研究部

1 保健所別検査依頼受付状況

保健所地区	菌株数	疾患名（菌株数）
西部	10	腸管出血性大腸菌感染症（5）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（3）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2）
西部（広島）	2	腸管出血性大腸菌感染症（2）
西部（呉）	0	
西部東	6	腸管出血性大腸菌感染症（4）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（1）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（1）
東部	1	腸管出血性大腸菌感染症（1）
東部（福山）	0	
北部	4	腸管出血性大腸菌感染症（1）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（3）
福山市	3	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（2）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（1）
呉市	5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（4）、バンコマイシン耐性腸球菌感染症（1）
合計	31	

2 五類感染症に関わる菌株の性状

疾患名	診断年月日	患者の年齢	発生地区	菌種	性状
腸管出血性大腸菌感染症	R6. 7. 31	11	西部広島	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0157:H7、ペロ毒素型：VT2、MLVA型：24m0303
	R6. 7. 22	55	西部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：08:H9、ペロ毒素型：VT2
	R6. 8. 8	74	西部東	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0157:H7、ペロ毒素型：VT2、MLVA型：23m0489
	R6. 8. 17	35	西部東	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0157:H7、ペロ毒素型：VT1・2、MLVA型：24m0267
	R6. 8. 19	29	西部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0157:H7、ペロ毒素型：VT1・2、MLVA型：24m0267
	R6. 8. 23	46	西部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0157:H7、ペロ毒素型：VT1・2、MLVA型：24m0267
	R6. 8. 23	24	東部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0103:H2、ペロ毒素型：VT1
	R6. 8. 31	41	西部広島	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0UT:H4、ペロ毒素型：VT2
	R6. 8. 29	20	西部東	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0157:H7、ペロ毒素型：VT2、MLVA型：24m0442
	R6. 9. 14	61	西部東	<i>Escherichia coli</i>	血清型：026:H11、ペロ毒素型：VT1、MLVA型：24m2090
	R6. 9. 17	56	西部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0UT:H21、ペロ毒素型：VT2
	R6. 10. 7	23	北部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：091:HUT、ペロ毒素型：VT1
	R6. 10. 15	69	西部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：0115:H10、ペロ毒素型：VT1

UT:型別不能

3 五類感染症に関わる菌株の性状

疾患名	診断年月日	患者の年齢	発生地区	菌種	性状
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	R6. 6. 27	73	呉市	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 7. 13	93	北部	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 8. 5	81	福山市	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：ESBL、β-ラクタマーゼ遺伝子型：SHV型、TEM型、CTX-M-1 group
	R6. 8. 19	78	西部	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 8. 19	66	西部	<i>Serratia marcescens</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 9. 24	78	西部	<i>Serratia marcescens</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 10. 2	78	西部東	<i>Klebsiella</i> sp.	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 9. 30	72	呉市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 9. 26	81	北部	<i>Serratia marcescens</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 10. 2	65	福山市	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：ESBL、β-ラクタマーゼ遺伝子型：SHV型、TEM型、CTX-M-1 group
	R6. 10. 23	84	北部	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：EBC型
	R6. 10. 25	81	呉市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 10. 24	69	呉市	<i>Citrobacter braakii</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	R6. 8. 18	51	呉市	<i>Enterococcus fecium</i>	耐性型：VanA型、耐性遺伝子：VanA
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	R6. 7. 6	70	西部	<i>Streptococcus pyogenes</i>	Lancefield群別：A群、T血清型別：T4、emm型：4、発赤毒素遺伝子：speB、speC、speF
	R6. 7. 22	60	福山市	<i>Streptococcus pyogenes</i>	Lancefield群別：A群、T血清型別：T1、emm型：1、発赤毒素遺伝子：speA、speB、speC、speF
	R6. 7. 24	90	西部	<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	Lancefield群別：G群、emm型：stG20
	R6. 8. 7	59	西部東	<i>Streptococcus pyogenes</i>	Lancefield群別：A群、T血清型別：TUT、emm型：89、発赤毒素遺伝子：speB、speC、speF

UT：型別不能

3 コメント

腸管出血性大腸菌感染症：短期間に共通したMLVA型の集積がみられ、同一の株による感染事例が疑われました。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症：カルバペネマーゼ産生菌は検出されませんでした。